

おぶせくらし図鑑

西村直人さん
絵理香さん

大阪府出身の夫・直人さんと、長野市出身の妻・絵理香さん。東京、愛知、大阪を経て、14歳、10歳、6歳の3人の子どもを育てながら、2019年から小布施町で暮らしています。移住のきっかけや、仕事のこと、子育てのこと、日々の暮らしなどについてお聞きしました。



「直人さんは、移住前は自動車の機械部品の設計の仕事をしていたそうですが、転勤が多かったのでしょうか。」

直人さん…さまざまな自動車メーカーの本社に向向して社内で設計を担当していたので、各メーカーで大きな開発プロジェクトがあるたびに転動していました。転勤先は東京都日野市や愛知県豊田市などです。結婚したときは東京で、東日本大震災があった2011年、地震の1週間後に愛知県に転勤になりました。そこで5、6年暮らした後、大阪に転勤になり、1年半ほど経った2019年に小布施町に移住しました。

「移住のきっかけは。」

直人さん…妻も私も山や自然が好きで、定年退職したら長野で暮らしたいとずっと話してはいたんですよ。妻とは友だちや仕事仲間とスキーをするなかで出会って結婚し、東京でも愛知でも冬の週末はスキーをしていました。長野にもしょっちゅう来ていましたが、移動のたびに大渋滞に巻き込まれ、時間があったくないと話してはいたんです。特に愛知のときは、スキーや妻の実家への帰省のたびに南北に長い長野県を縦断していたので、漠然と「将来は長野で」と思っていました。しかし、愛知から大阪

に引っ越したときに、当時小学生だった長男に転校の負担があったため「いつかではなく、今、長野に移住できるならいいよね」という話になりました。

絵理香さん…それと、自分たちの親の姿も見ていると、退職後の移住では年齢的にパワーがないよなども感じました。ちょうど夫が40歳になる年だったので、転職ができる最後のチャンスではないかとも思ったんです。

直人さん…そこで長野で仕事を探し、転職というかたちで移住しました。前職と全く同業の仕事だとまた転勤が発生するので、関係する業界で転職先を探し、自動車部品の製造装置を設計する須坂市の会社に就職しました。

「移住先を小布施町に決めた理由は。」

直人さん…職場がある須坂と、周辺の小布施、長野市を移住先の候補に挙げ、何回かに分けて各地を見て回りました。役場の担当者などに話を聞き、小布施町では移住定住コーディネーターの中田翔太さんからも、自治会活動などを含むさまざまな話を聞きました。

絵理香さん…最終的に小布施にした決め手は、子どもの転校がなかったことで

す。例えば移住後、借家で暮らし、その後、家に購入した場合、須坂のように広い地域では、引っ越し先によって学区が変わり、また転校になる可能性があります。小布施の場合は、町内に小学校がひとつしかないんですよ。

直人さん…それに、小布施には小学校に「子ども教室」という面白い取り組みがあることもわかりました。一般的な学童とはちょっと違う登録制の放課後の子どもの遊び場で、農作業や伝統芸能などいろいろな活動があるんです。その取り組みにも興味がありました。あとは、通わせたい思いもありました。あとは、



すぐに住める良好な状態の一軒家の借家が見つかったこともあり。トントンの拍子でいろいろなことが決まったことも大きかったですね。

「移住後、子どもたちの反応は。」

直人さん…長男は転校後、最初は緊張したようですが、すぐに皆が話しかけてくれてうれしかったと言っていました。

「ご近所付き合いなどはどうでしょう。」

直人さん…当初は松村という地区に移住しました。自治会の結びつきが強く仲が良い地区で、地域清掃やバーベキュー、餅つきなど、いろいろな活動がありました。参加すると皆さんが気にかけてくれ、ブドウを実家に送りたいと話したときは、ブドウ農家の方がご当地価格で譲ってくれました。自治会があったおかげで地区の人たちに顔を知ってもらい、つながりが広がられましたね。ゴルフをやると話したら誘ってもらえ、そこでまた知り合いが増え、父親世代の人たちとも仲良くなりました。

絵理香さん…引っ越してきてすぐに、お向かいさんから小学校の体操服を譲っていただいたこともありましたね。

直人さん…2022年に松村から今の福原地区に引っ越しました。コロナ禍でしたが、地域清掃などの自治会活動はありましたし、コロナが落ち着いた今年（2024年）からはいろいろな活動が再開しています。子どもの育成会では役員になり、そこでまた知り合いが増えました。もちろん、活動の参加が苦手な人もいますが、移住者の観点からしたら自治会の存在はありがたいですね。

「そもそも自治会活動の参加に抵抗感はありませんでしたか。」

直人さん…私はないですね。大阪時代も育成会のような集まりですつとリーダーを担当し、子どもたちを連れてキャンプに行ったりしていました。抵抗がないというより、むしろ好きなほうです。

「松村から福原に引っ越した経緯は。」

直人さん…ずっと中古の一軒家を探していて、今の物件の話を住宅メーカーからいただいたのがきっかけです。以前のオーナーさんは子育てが一段落して別の土地に引っ越された方で、子育て世代に住んでほしいとご希望があったようです。内覧に来てすぐに気に入って、その場で契約を進めました。夢だった薪ストーブが備わっていたのも魅力でしたね。



「移住後、仕事による暮らしの変化はありますか。」

直人さん…かつての職場に比べ、皆さんが自治会活動に理解があるので、朝の交通当番などで出勤時間が少し遅くなるかと伝えても快く対応してくれます。そういう風土が根付いているんですね。良い職場に恵まれました。

そもそも、転職で重視していたのは、プライベートも大切にできる仕事を見つけたこと。前職は多忙で残業も多かったのですが、移住後は農業や家庭菜園などもやり、子育てにももっと時間を割きたいと思っていました。今は深夜までバリバリ働いて電気が常に点い

